

「ユニバーサルとは何か」という原点から手探りで
学び、考え、実践を進めた

いわきアリオスユニバーサルデザインの取組

いわき芸術文化交流館アリオス

田中 理紗

いわき芸術文化交流館アリオス 企画協働課 地域連携グループ サブチーフ

セクションを横断した「ユニバーサルデザイン検討推進委員会」を立ち上げ、「ユニバーサルデザインとは何か」を問うことから手探りで施設のユニバーサルデザイン化を目指す取組。施設は15年前にバリアフリーとして建てられているが、ユニバーサルデザインに対するソフト面（人）のアップデートをいかにするかを検討し、話し合いを重ねながら、「誰にでも開けた場所」となることを模索している。ユニバーサルデザイン公演事業の実践を通して「ユニバーサルデザインとは」を実地で学び、フィードバックを重ねている。令和5年度は専門家の協力を仰ぎ、ステップアップと施設職員全体への共有を進めている。

●事業を始めたきっかけ

令和3年夏、支配人とユニバーサルデザインに関心をもつ職員からの提言を受け、「ユニバーサルデザイン検討推進委員会」を設置。技術部門も含めて各部署・各グループから1人ずつ参加し、10人体制で活動をスタートさせた。若手スタッフが中心となり、支配人がアドバイザー、施設管理課長がオブザーバーとして加わっている。スタッフは福祉や障がいのある方に関する経験、知識はほとんどなかったが、東日本大震災後に設置した「防災訓練プロジェクト」をはじめ、職員同士で話し合っただけで新規の取組を進めるという制度が施設の中に既にできており、ユニバーサル委員会も同様に職員主導で検討を行うこととなった。

●事業の目的・意義

当施設は誰にでも開けた場所であることを目指し、公演のない日でも、共有エリアはいつでも自由に出入りできる施設となっている。ユニバーサル化により、障がいのある方にも自分が行ってよい場所なのだと感じていただき、文字通り「誰にでも」開けた場所となることを目的としている。いろいろな人がアリオスを利用し、人生を豊かにするにあたって、予想される困難や障壁をスタッフ全員が認識し、質をキープした状態でお客様に対応できるようにすること。対応に苦慮する部分などざっくばらんに意見を出し合い、スタッフみんなで学んでいける環境を醸成することを目指している。

●事業の変遷

令和4年度末までは10人体制で、月1回程度委員会を開催し、議論を行った。委員会ではまず「ユニバーサルデザインとは」を考えることから活動を始めた。「バリアフリー」という言葉は皆知っていたが、「ユニバーサルデザイン」「ソーシャルインクルージョン」など、そもそも言葉の意味や違いもわからず手探りで学びながらのスタートだった。その後、館内の車いすによる移動や、白杖に似せた棒を持って目をつぶって館内を歩くなどの体験など重ねていった。しかし、ユニバーサルの概念は幅広く、事業としてどう進めていけばよいのか、なかなか焦点が合わなかった。

そこで令和4年、実際にユニバーサル鑑賞事業を試みることにした。実際に事業のユニバーサル化に取



ロゴの説明

- ・白黒にしても小さくしてもみやすいよう、シンプルに
- ・カラーは色弱の人でもほぼ変色せず見える、青と黄色を使用
- ・どこの検討推進委員かわからないので Alios を入れました
- ・みんなが笑顔になれることを考えていきたい想いのスマイル
- ・角を落としたデザイン=使いづらさを落とすイメージ
みんなにやさしい角の取れた施設をめざす

ユニバーサルデザイン検討推進委員会ロゴ

り組むことで見えてくることがあるだろう、そこで出てきた課題をもとに改善していこうと考えたためである。全ての障害特性をカバーできる演目選択は難しかったため、まずは聴覚障がいのある方でも楽しめ、外国の方にも来ていただきやすいマイムの公演を選び、10月に公演を行った。このように活動の1年目は職員が情報をもち寄り、導入の可能性などを話し合った。

2年目の令和5年度からは施設系スタッフ1人、テクニカルチーム1人、経営総務課1人、企画協働課から2名の計5名体制となり、1か月に1度程度実施している。加えて、一般社団法人日本障害者舞台芸術協働機構 代表理事の南部充央氏のワークショップへの参加をきっかけに、南部氏と連携しながら事業を進めている。

手探りでの活動はまどろっこしく見えると思うが、メンバー一人一人が情報を探し、考え、少しずつできそうなことを見つけていくプロセスが大切だったと考えている。同じ目的をもって集まった人たちなので、皆が同じ立場で「いいね、じゃあそうしようか」というような、楽しみながら合意がされ、進めていく空気や意識があるように思う。

●実施内容

【令和4年 マイム パフォーマンスグループCAVA 「You'll Never Walk Alone」公演】

・コミュニケーションボード：ユニバーサル検討委員会で話し合いながらアリオスのオリジナルを作成。現場スタッフから、英語が必要な箇所や、色弱の方等に配慮した色づかいを提案されるなど、協力・改善しながら作成。シチュエーションによって必要とされる内容を想定し、複数のバージョンを作成。

・ポケットク：異なる言語の相手同士の会話を可能にする通訳ツール
 ・タブレット：筆談が必要な際に活用
 ・「思いやり駐車場」：駐車場から段差なく館内へ入場できる専用駐車場の案内（開館から設置）

・車椅子席の増設
 ・マイム公演の上演者には、事前にユニバーサルな取組を実践したいこと、上演中に声を出したりする人がいるかもしれないこと等を理解いただいた。

・配布物、広報物の見直し：車椅子介助者は両手がふさがっているため、当日のパフレットやチラシなどが邪魔ではないかと考え、紙以外の媒体も選択可能とすることを検討。広報物全体についても見直しを行い、例えば公演主催者のインタビューは、当館広報誌に掲載後、全文をウェブサイトに掲載したほか、インタビュー動画も公開して文字以外でも情報をとれるようにした。



公演時筆談案内



公演時チケット案内



観劇のユニバーサルデザイン
 情報を入れた
 「You'll Never Walk Alone」の
 チラシ



【令和6年1月新作声明「螺旋曼荼羅海会」公演】

・視覚障がい者にも楽しんでいただけることを意識して演目を設定。
 ・本公演で演出家による前説を行い、当日パンフレットによる文字情報だけでなく



視覚障がい当事者へのアンケート聞き取り



声明の会・千年の聲衣装展示の様子

耳からの情報も受け取れるようにした。

- ・関連企画として声明体験ワークショップを開催。

●協働・連携

障がい児の親で、障がい者のグループホームも主宰する元アリオスアドバイザー委員と社会福祉協議会職員、地域生活支援コーディネーターの担当者にグループインタビューを実施した。その際「行っても大丈夫でしょうか。伺っても対応しきれないかもしれないです」「電話に出る人により対応に差があり、心が折れる」「駐車場の車止めが車いすを出し入れする際に妨げになることがある」等の意見が出た。また、「施設をつくる際に私たちの話も聞いてもらえるとうれしい」と言われ、そのような視点の欠如に気づいた。

行ってもよいと思える施設にするには、ウェブサイトにも館内のトイレの位置や駐車場の情報を掲載したり、それらの案内をわかりやすい位置に置いたりなど、見せ方も考える必要がある。当事者の方々に使いつらい点などを教えていただけるよう、関係づくりをしていきたい。

●事業担当者の感想

ユニバーサルデザインについて知識を得れば得るほど、必要だと思われる支援が増える。すべてできないのはわかっているが、優先順位を付けられないものに優先順位を付けざるを得ない難しさを感じている。加えて、新たな情報がどんどん出てくるので、どの時点でアップデートし、それをどう施設全体に伝えていくのか、全体に浸透した頃には、また情報は更新されていくなどの難しさがある。

●参加者、関係者の反応

公演のアンケートに記入していただいた方からは、おおむね「よかったです」とか「楽しかったです」というような言葉をいただくが、当事者からの反響は少ない。それはまだお互いに顔が見えていないためだろう。関係づくりが課題。多言語表記については、日本語習熟度の高い留学生からも、「英語表示はもっとほしかった」とコメントがあった。支援学校の生徒の保護者からは「自閉症があるので視覚支援があると嬉しい」などの声が寄せられている。

また、一般客から「チケットの文字が小さくて見づらい」という声が聞かれた。通常の公演だと出てこない感想も、ユニバーサルに特化した公演だと伝えていただけたことがわかった。

●事業の課題

いつでも同じサービスができないと、「サービスをやっています」とは言えないが、マンパワーは限られており、提供するサービスがどんどん揺れていく部分があることに、とてもジレンマを感じている。また、障がいの有無や国籍等に関わらず、皆と一緒に鑑賞できることを前提とした事業でも、来場を躊躇する方はいると思うので、個人としては、対象を障がい者に特化し、アウトリーチの一環としてグループホーム等で事業を行う方がよいのかもしれないと考えることがある。しかし、そうするとユニバーサルとは趣旨が変わってくる点に難しさを感じる。

当館は市の直営なので対象者は「あまねく」が原則であり、公平性、平等性等を考えると、対象を限定した企画の立案は難しい。よい公演を打っても、お客様に来ていただければ取組を知っていただくこともできないため、まずはたくさんの方に来ていただき、このような鑑賞支援サービスを実施していることを広く知っていただく必要がある。ブランディングも含め、入場者を増やす方策を考えたい。

●今後の展開

ユニバーサルを当たり前にするには議論をし尽くす必要があるが、議論することで停滞する可能性もある。この事業にゴールはないので、限られたマンパワーの中で何をしていくかを考えながら、無理なく、

細々とでも続けていくことが重要だと考えている。また、成功体験だけではなく、つまづいている部分を含めて他館と情報交換でき、解決に向けた相談のできる場があるといいと思う。

令和4年度、令和5年度は、ユニバーサルデザイン検討推進委員会が一月に一度程度集まり、ユニバーサルデザインを取り入れた事業を一本行ってきたが、令和5年度以降は特別立てをせず、各自が立てた企画の中に鑑賞支援サービスを入れるという視点に移し、通常事業の中に組み込んでいくことになった。ユニバーサルデザイン検討推進委員会も頻繁に集まって話し合いをするのではなく、気づいたことがあれば持ち寄り、報告するような流れになっていくのではないかと。最終的には、このような委員会がなくなり、スタッフ一人一人に浸透するのが一番よいと思う。

【「いわきアリオスユニバーサルデザイン」事業データ】

●「ユニバーサルデザイン検討推進委員会」

開 始 令和3年
構 成 令和4年度10名 令和5年度5名

●「マイム パフォーマンスグループ CAVA 「You'll Never Walk Alone」

実 施 年 月 令和4年10月（3回）
公 演 回 数
入 場 料 指定3,000円、ペア券（2枚1組）5,000円、U25（25歳以下）1,000円、小学生 500円、未就学児無料（要事前申込）withチケット（ご本人チケット代+付き添い1人につき500円）
補 助 金 文化庁 芸術文化振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）
広 報 当館の広報誌、各施設・支所・支援学校・障害福祉課等へのチラシ配布、失語症協会の方等、SNS、当館YouTube

●「声明の会・千年の聲 新作声明「螺旋曼荼羅海会」

実 施 年 月 令和6年1月（1回）関連企画「はじめての声明～声明にふれてみよう」も開催
公 演 回 数
入 場 料 指定3,000円、ペア券（2枚1組）5,000円、U25（25歳以下）1,000円、小学生 500円、withチケット 500円、未就学児無料（要事前申込）
広 報 当館の広報紙、各施設・支所へのチラシ配布、盲人福祉協会への点訳チラシ配布、SNS

いわき芸術文化交流館アリオス

所在地：〒970-8026 福島県いわき市平字三崎1-6
TEL：0246-22-8111

設置者：いわき市

開 館：2008年

規 模：アルパイン大ホール（1,705）・中劇場（687）・小劇場（233）、いわしん音楽小ホール（200）

施設の特徴：気軽に集い、ふれあい、楽しめるコミュニティであること。敷居の高い「文化の殿堂」ではなく、子どもから大人まで、多くの市民が自分らしい楽しみ方、自分の居場所が見つけられる、新たな「コミュニティ空間」であることを施設のコンセプトの一つとしている。

ホームページ：https://iwaki-alios.jp/



いわき芸術文化交流館アリオス 外観

※写真はすべていわき芸術文化交流館アリオス提供